

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、()はR2中間評価、〈 〉はR1最終評価 のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するとともに、オンライン授業も活用し授業力の向上を図る。	アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにオンライン授業により学習効果が高まった(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	感じている 21.8% やや感じている 52.7% あまり感じていない 19.8% 感じていない 5.8% 感じている+やや感じている=74.5% B評価 〈昨年度〉 感じている 22.4% やや感じている 45.8% あまり感じていない24.0% 感じていない8.0% 感じている+やや感じている=68.2% C評価	「感じている」+「やや感じている」が昨年度より6.3ポイント上回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その技法や内容面に改善してきたことを意味している。日頃から授業手法や成果の共有を行い、「思考する授業」を実践し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしてきた結果であると思われる。今後、更に学習効果が高まった感じることができる授業を実施していきたい。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a多く設定40.8% b時々設定40.8% cあまり18.4% d全く0.0% a+b=81.6% C評価 〈昨年度〉 a 27.7% b 59.6% c 12.7% d 0.0% a+b=87.3% C評価	a評価+b評価が81.6%と昨年度より5.7ポイント下回ったが、a評価(多く設定)について見れば13.1ポイント上昇している。授業改善を図り、生徒自ら主体的能動的に学ぶ力をつけようとした結果であると思う。中間評価では、a評価+b評価が97.9%であったことを考え合わせると共通テスト前は演習中心の授業が展開され、最終評価でポイントを下げたと考えられる。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	aよく当てはまる15.7% bやや当てはまる52.3% cあまり 27.6% d全く 4.4% a+b=68.0% C評価 新規のため昨年度のデータなし	中間評価ではa+b=73.0%であったが、5ポイント下げる結果となった。3年生は受験前で積極的に取り組む生徒が増えていると思われるが、反面1,2年生が減少していると考えられる。年度当初は良い意味での緊張感から家庭学習に取り組んでいたものが、継続されていないのではないかと考えられる。今後は学年団、進路課とも連携を図り、自発的に家庭学習に取り組む習慣を確立させていきたい。
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【1年】 74.6% B評価 〈70.3 B評価〉 【2年】 80.0% A評価 〈72.1 B評価〉 【3年】 80.0% A評価 〈82.0% A評価〉 【全体】 78.2% B評価 〈74.7% B評価〉	【1年】 前年度より4.3ポイント高い。落ち着いた雰囲気朝学習に取り組んでおり、その取り組みが定期試験や模擬試験の結果に表れることを実感している生徒も多いと思われる。しかし、週2回の「思考の時間」は、学習の結果に短時間で現れるものではなく、生徒も学力や教養が身についたことが実感しにくいと思われる。来年度以降、生徒への動機づけや実施内容を精査する必要があると思われる。 【2年】 前年度より肯定的な回答が7.9ポイント増加した。2学期から文系・理系で内容を変え、昼食時や放課後の再テストや学習会と連動させることで朝学習に対する生徒の意識も高まったと考えられる。ただ、学習に対して受動的な姿勢の生徒も多いので、最終学年を迎えるに当たり、より能動的、自発的な取り組みを促したい。 【3年】 英語科は長文読解とリスニング演習、他の教科は小テストを中心に朝学習を行った。不合格者の指導に各教科工夫を凝らし、基礎力養成に努めた。不合格者への対応と、応用力養成の狭間で悩むことが多い1年であった。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習は、学習課題を与えることはできても、反応を見取ることが難しい。課題の提出の確認を行うことが大切である。 ・アクティブラーニングでは、コミュニケーション力の育成を図って欲しい。 ・GIGAスクール構想についてどのようになっているのか。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習について、生徒の生活リズムを維持することや、一人一人への対応という面から、臨時休校への備えを再確認していく。 ・特に探究活動において、グループ内での活動や、学校外での取材活動の機会をとおして、コミュニケーション力を意識して育成していく。 ・Chromebookは台数が限られていて一人1台の実現はできないが指導する教員の研修など準備・工夫により有効な運用を検討していく。 			

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、()はR2中間評価、< >はR1最終評価 のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 個別面談や学習活動を通してきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 90人以上 B 70人以上 C 50人以上 D 50人未満	【1年】 93.4% B評価 【2年】 82.8% D評価 【3年】 122名 A評価 <R01> 1年 94.3% 2年 90.1% 3年 99.0%	1年は、休校再開後の文理選択指導や保護者対象の説明会の開催など、ほぼ例年通りの早期の進路指導を手厚く行い、進路意識の涵養と学習への意識付けを行っており、3年連続で90%を上回った。 2年は昨年度、90%を上回る高い数値であったにもかかわらず、85%を割り込む結果となった。原因として、コロナ感染症対策にともなう進路関係行事の計画変更や中止による指導機会の喪失や遅延があげられるため、今後の指導機会の充足により、高い志望を涵養していきたい。 3年は金沢大学以上を目標とする生徒の割合が、過去最高であった昨年度の3年生の37%を大きく上回る46%となった。今後とも、この高い志を家庭学習の定着や学習時間の伸長につなげていく取組が重要である。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	※()は7月進研、< >はR01年11月進研 【1年】国語45.6 C評価(47.4 C評価)<48.6 B評価> 数学46.4 C評価(47.4 C評価)<49.6 B評価> 英語43.2 D評価(43.4 D評価)<45.8 C評価> 【2年】国語47.8 C評価(49.0 B評価)<49.2 B評価> 数学48.5 B評価(48.4 C評価)<48.7 B評価> 英語45.5 C評価(46.4 C評価)<45.8 C評価>	11月進研模試の3教科総合全校偏差値は、1年が44.1、2年が46.9であり、1・2年とも7月比・前年度比ともに下回った。コロナ感染症対策の休校期間から始まった今年の成績動向は、過去のどの学年と比較しても厳しい現状である。特に1年は上位者が少なく、下位者が多いため、過去に同様の成績動向でありながら、進路実現の達成に成果があった学年の取組も参考にし、年度末の学年移行期を意識させるなどの取組を行い、学習習慣の確立と学力の伸長に力を注いでかなければならない。
	③	1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	※()は7月進研、< >はR01年11月進研 【1年】8名 D評価 (16名 D評価)<40名 C評価> 【2年】29名 D評価 (43名 C評価)<34名 D評価>	1年上位者は、どの層においても7月・過回比で大きく人数を減じており、過年度比で最も大きな集団を形成している下位層対策とともに、対応を検討していく必要がある。 2年は、平均偏差値・上位者数動向ともに数値を減じてきており、特にこの11月模試においては、直前にコロナ感染症対策に関わる修学旅行代替行事があったためか、受験の記述力の指標となる文系国数英・理系国数英動向とも、近年では最も憂慮すべき成績推移となっており、学年団を中心とした対策を進行中である。
	④	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満	金沢大学以上の国公立大学合格者数 3名 D評価 北海道大1、金沢大2	浪人生1名のみが北海道大に合格し、エクシードクラス初の卒業年より5年連続の旧帝大合格となった。一方で新型コロナウイルス感染症の拡大を受けた全国的な地域内志向の高まりと地元国立大学である金沢大学の入試制度の大幅変更及び難化が、本校北陸3県受験者の入試動向と結果に甚大な影響を及ぼし、金沢大合格数は一昨年と同数にとどまった。
		国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	国公立大学合格者 75名 評価A	創立以来最高数値であった昨年度の94には届かなかったが、5年連続で在籍者数のおよそ25%、70名を超える高水準を継続した。また在校生のみでの74は、一昨年度の71を上回る結果となり、コロナ禍での不利な条件下における逆風の中、果敢に挑戦した生徒達の努力が実を結んだものと考えられる。
		難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	難関私立大学合格者7名 D評価 青山学院大1、立命館大5、関西大1	昨年度に続き、私立大学や専門学校などを志向する私立文系クラスの上位生徒が多様な進路を志望する生徒たちであったことと近年の全国的な私立大学入試の難化傾向にコロナ禍での入試における、本校生徒も含む地元志向の拡大により、現役生の難関私立大学の合格者数は奮わなかった。一方で、地元私立大学の合格者数は大幅に増加した。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストが導入され大きな変化が予想されるが、これまで同様丁寧な対応で子どもたちを導いてもらいたい。 ・高校選びの一つの指標として大学合格実績だけでなく「自分の夢が叶う」ことが大事であり、色々な視野での進路実現があると良い。キャリア教育では年齢の近い20代くらいの成功者の講演の機会などもっとあると良い。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストについては、生徒が安心して受験できるという視点を大切に指導していく。また、今後分析を行って対策の充実を図っていきたい。 ・キャリア教育をはじめ様々な行事を感染対策に配慮した上で生徒の意欲や充実感が高まるよう検討・実施して進路実現を支援していく。 ・『育てる明倫』という本校の特徴が浸透するよう学校説明会等をおして伝えていく。 			

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、()はR2中間評価、< >はR1最終評価 のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	29.4%:D評価 (37.9%:D評価)	総会・朝の挨拶運動・明倫祭などが取りやめまたは生徒のみの開催となり、3回以上来校の割合が昨年38%から大きく減少し、29.4%だった。コロナの影響で仕方がなかったが、生徒の活躍を見てもらうことができず残念な1年であった。それを少しでも埋めるように、特にPTAの役員の方が自転車マナー指導や学校の取材などに参加し、広報誌やホームページ、メール、文書などを発信するなどして学校と家庭をつなぐ役割を果たして下さったことがありがたいと思う。来年度に向けては、感染症の対策を続けながら、学校の様子がわかるよう工夫したい。	
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	ホームページ上の更新回数が A 100回以上 B 80回以上 C 60回以上 D 40回未満	100回以上 A評価 (200回以上 A評価) 更新内容(部分/1月13日現在) トップページ60回、部活52回、月ごとに月間行事計画、学年通信、保健だより、学校紹介動画。 保護者・生徒向け限定公開で明倫祭動画、先生からのメッセージ、副校長のブログを発信(60回以上)。		今年度は学校を公開する機会が限られていたので、学校紹介動画を作成し、広く情報を発信した。また限定公開で保護者・生徒に向け明倫祭動画などを多数発信した。ホームページを「閲覧している」との回答は32%(昨年12.8%)と増えている。1学期の休校期間には課題の収受だけでなく、副校長や担任からの言葉が毎日のように更新され、少しでも生徒との心のつながりが図られたと思う。今後も引き続き使いやすいHPづくりを心掛けたい。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	12月現在 1年生 99.3%(99.3%)<97.8%> 2年生 80.1%(76.9%)<83.7%> 1,2年生の部活動の加入率が 89.7%(88.1%)<90.8%> B評価		1年生は全員部登録をしていること、2年生は9月以降の退部が少ないことから部加入率は高い。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響のためか2年生で9月までに途中退部する生徒も約2割いた。新型コロナウイルス感染症の為に色々と活動制限がある中でも、生徒が日々の部活動を意欲的に取り組めるようにし、充実感・達成感を味わえるようにし、学校生活の意欲を高めることにも繋げたい。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を充実させ、近隣商業施設・小中学校でのポスター掲示などの広報活動を活発にすることで、地域と連携を目指す。	1日目の来場者数のうち小中学生・地域住民が A 330人以上 B 300人以上 C 270人以上 D 230人未満	一般公開取りやめのためデータなし		令和2年度明倫祭は新型コロナウイルス感染症の予防対策として、開催期間を1日短縮し外部からの来場者を入れない対応をした。次年度の開催は土曜日の2日間、準備期間も例年通りの行事計画となるので、生徒たちの展示・発表で来場者をおもてなしできるようにしていく。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会には制限されるが、それでもできる範囲で活動していく。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6~7回 B 年間5~6回 C 年間4~5回 D 年間4回未満 ※休校・自粛の現状を考慮して数値を設定した	2回 D評価 ・7月 本講図書館にて図書選定実習実施 ・11月 POP作成講習会を実施した。 ※2回とも書店の方がいらした。		コロナ禍により、書店以外の外部(地域)との交流活動ができないという状況である。今年度は地域の大学図書館見学も考えていたが中止となった。来年度は状況が好転していくことを願うばかりである。
学校関係者評価委員会の評価	・「選ばれる学校」になるために、特にコロナ禍の中では、ホームページの更新に取り組むことは重要である。また、イメージも大切なので野々市市との連携の記事などが多く出ると良い。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・ホームページについては、より見てもらえるとともに学校選びの参考になるように掲載内容の検討をしていく。また行事等を積極的に				

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、()はR2中間評価、< >はR1最終評価 のデータ

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	朝の挨拶運動で協力していただく中で生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が 良く当てはまる 28.1%(26.1%) <26.0%> やや当てはまる 54.2%(56.7%) <52.1%> 計82.3%(82.7%) <78.1%> A評価	12月学校評価アンケート結果では、7月と比べ「良く当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒がほぼ変わらなかった。新型コロナウイルス感染症の為、保護者の挨拶運動が実施されていないにも関わらず「よく当てはまる」が増えており、今後も登校時の教職員による生徒への挨拶を積極的にしていきたい。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が 良くあてはまる 55.5% (69.9%) <65.8%> ややあてはまる 41.3% (29.0%) <31.2%> 計96.8% (98.9%) <96.9%> A評価	12月学校評価アンケート結果では、7月よりも、「よく当てはまる」と答えた生徒が減少したが、「やや当てはまる」と答えた生徒とあわせると昨年度と変わらない。夏服から冬服になり、ネクタイ・リボンの付け方やシャツ・のボタンを留めることを生徒自身がしっかり意識しての自己評価だと考えられる。 今後も、生徒が身なりについての意識を高めるように全職員が共通理解をもって指導していきたい。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している生徒が 良くあてはまる 71.8% (74.1%) <72.9%> やや当てはまる 24.3% (22.3%) <23.7%> 計 96.1% (96.4%) <96.6%> A評価	生徒の自己評価では交通ルールを守っている意識が高い。石川県警からの交通指導状況でも4～11月で10件と昨年度の14件より減っている。しかし、登下校時にイヤホン着用や並列走行する生徒がまだ多く見受けられる。 自転車と自動車との交通事故は昨年度15件から8件と大きく減っており、生徒課を中心に学年団・部活動が連携して粘り強く声掛けを継続している成果と考えられる。事故の原因の多くは登校時で前方不注意が多く、生徒への注意を周知徹底する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 40%未満	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が 積極的 20.6% < 7.6%> やや積極的 25.3% < 9.7%> ※中間評価 無し 全体 40.9% < 18.3%> D評価	新型コロナウイルス感染症の影響の為、今年度は6月に学校全体で学校周辺の清掃活動を実施できず、10月の部活動有志による野々市駅・中央公園・学校周辺の清掃活動のみの活動となった。 部活動有志で行ったなこともあり、積極的に取り組んだ生徒の割合が高くなったと考えられる。新型コロナウイルス感染症の感染を心配したのか積極的でないと回答した1年生は47%、2・3年生が約22%の割合となった。 生徒個人でボランティア活動を探し参加することは難しいと考えられることから、まずは生徒がボランティアが特別なことでないという感覚を持つ為にも、学校全体や部活動で複数回のボランティア活動が経験できるようにしたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	よくあてはまる 48%(41.1%) <44.7%> ややあてはまる 38%(47.6%) <39.5%> 全体 86% B評価 (88.7% B評価) <84.2%:B 評価)	クラスや部活動の人間関係が良好であれば、学校生活は楽しく感じられるであろうと思われる。なかには、人間関係が良好であっても、学校そのものを苦手とする生徒も一定数存在する。今年度の特徴としては、3年生で低評価であった。今後も教員がよく生徒を観察し、友人との人間関係に問題を抱えた生徒を早期に発見して心のケアをすることを続けていきたい。

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、()はR2中間評価、〈 〉はR1最終評価 のデータ

⑥	情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	よくあてはまる 47.1% (25.5%) 〈39.0%〉 ややあてはまる 51.0% (72.5%) 〈59.0%〉 全体 98.1% A評価 (98.0% A評価) 〈98.0% A評価〉	担任団と相談室及び生徒課が連携を密にし、生徒の様子の変化に気を配り、問題に早く、適切な対応をすることができ高評価であった。昨今、困難さが多様化し、件数も多くなってきているが、生徒が学校生活を順調に送れるよう、今後も生徒情報の共有を行い、協力して対応していきたい。
⑦	歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 45%未満	1年生 20.7% 〈70.8%〉 2年生 30.8% 〈57.8%〉 3年生 22.5% 〈54.5%〉 全体 20.7% D評価 〈59.8% C評価〉	今年度は検診が2学期に実施されたために大変低い数字になっている。また、例年は夏休みに受診する生徒が多かったが今年度は非常に少ない。医療機関に行くことも抵抗があるような状態なのでやむを得ないと思う。
⑧	図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 4.0冊以上 B 3.5冊以上 C 3.0冊以上 D 3.0冊未満 ※休校期間を考慮して数値を設定した	1.8冊 D評価 〈2.6冊 : D評価〉	コロナ禍による2ヶ月の休校措置と、6月の一斉読書がなかったこと、実質夏休み（長期休暇）のない状態で例年のような特別貸し出しをしなかったことが主たる原因と考える。また、今年度は生徒に読書をする時間的な余裕がなかったのではないかとと思われる。読書習慣に関するアンケートを見ても昨年より悪化している。生徒に向けての発信ができないことも原因といえる。来年度正常化すれば、昨年並みになるであろうが、生徒への発信の仕方も今まで以上に考えていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・清掃ボランティアに本当に感謝している。このことを先生方や子どもたちに伝えてもらいたい。また、高校生活や学ぶことに「充実感」を持てることが大切である。 ・各種イベントの縮減・中止に伴う生徒たちのモチベーションが減退しないよう対応をお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・清掃ボランティアで市役所の方から感謝の言葉があったことなどを生徒にも伝わるようにして日ごろから生徒の自己有用感を高めていく。		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
5 教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 0人 B 1.0人未満 C 2.0人未満 D 3.0人以上	(単位:人) 4月5月6月7月8月9月10月11月12月平均 80時間以上 0 0 1 2 0 7 1 3 0 1.6 うち100時間以上 0 0 0 0 0 0 2 0 0 0.2 〈昨年80時間以上 5 6 7 7 3 4 3 6 0 5.1〉 C評価	新型コロナウイルス感染症に関する臨時休業により、4・5月は在宅勤務を多くの職員が実施するとともに学校再開後も部活動等に多くの制約があったこともあり、大きく改善したが、C評価にとどまった。業務の削減や効率化、負担の平準化により来年度0をめざし、更なる行事の精選や業務内容の見直しなどを進める必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・業務改善と教育の質や学校の活気のバランスを考えて取り組んで欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・教育の質を維持しつつ業務改善を進め、ワークライフバランスの改善を図ることで活力ある学校にしていく。		